

## 平成 22 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会

### 議事録

日 時： 平成 22 年 8 月 31 日（火） 14:00～17:00

場 所： 札幌ガーデンパレス

出席者： 宮川委員長，岸幹事長，

角田，小柳，阪田，長瀧，町田の各顧問，

鮎田（代；井上），牛島，大塚（代；武田），児島（代；水田），佐藤（良），鈴木（代；伊藤），

添田，近田（代；壇），辻，名和，久田，守分，渡辺（忠）の各委員，

石橋，井上，入矢，宇治，岡澤，金津（代；松村），鎌田，河合，河野，坂井，塚，島，下村，

新藤，武若，富田（代；田中），中村，西垣，二羽，橋本，丸山，睦好，渡辺（博）の各常任委員，

信田，服部，濱田の各幹事，村木（事務局）

配布資料：

3-0 平成 22 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事次第

3-1 平成 22 年度 第 2 回常任委員会 議事録（案）

3-2 土木学会コンクリート委員会・委員会活動報告

3-3 土木材料実験指導書編集委員会委員構成（案）

3-4 けい酸塩系表面含浸材設計施工研究小委員会（275 委員会）委員構成（案）

3-5 コンクリート委員会第 3 種委員会 15 年間（1995-2009）の活動の概観

3-6 平成 23 年以降（平成 23 年 4 月以降）の出版企画の募集について

3-7 論文賞選考委員会資料（平成 22 年度土木学会賞候補の募集）

3-8 施工性能に基づくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会（341 委員会）委員構成

3-9 2010 年制定コンクリート標準示方書[規準編]講習会（案）

3-10 第 54 回日本学術会議材料工学連合講演会

3-11 土木学会 土木構造物共通示方書 講習会（CPD 認定プログラム）のご案内

議事

#### 1. 委員長挨拶（宮川委員長）

「今回はコンクリート委員会全体の集まりであり，コンクリート委員会が所管する小委員会の活動報告を予定している．活発な意見をいただきたい」との挨拶が行われた．

#### 2. 平成 20 年度第 2 回常任委員会議事録の確認【資料 3-1】

濱田幹事より前回常任委員会の議事録案が報告され，以下の修正を行うことを前提に議事録案が承認された．また，慶弔金の取り扱いについて，丸山委員より，「議事録案記載のとおり，コンクリート委員会保有の寄附金から慶弔費を支出できることが理事会で確認された」との報告があった．

議事録案修正事項；

- ①3(3) (p. 3) 「…乾燥収縮 850 $\mu$  以下という規準…」  
→【修正後】「…乾燥収縮 850 $\mu$  未満という規準…」
- ②3(4) (p. 3) 「平成 13 年 3 月末の発刊とすることから、平成 12 年 12 月までに作成する。」  
→【修正後】「2013 年 3 月末の発刊とすることから、2012 年 12 月までに作成する。」
- ③3(4) (p. 3) 「…受託を受けることも考えているとの回答が出された。」  
→【修正後】「…受託を受けることも考えているとの意向が示された。」
- ④4(3) (p. 4) 「9 月 1 日の 16 時 30 分より…」→【修正後】「9 月 1 日の 16 時 15 分より…」
- ⑤4(3) (p. 4) 3 番目の「堺委員より、…」及び 4 番目の「濱田幹事より、…」の二つの記載文章を削除する。

### 3. 審議事項

#### (1) 土木学会コンクリート委員会・小委員会活動報告（1 種・2 種）【資料 3-2】

宮川委員長より、前年のコンクリート委員会（2009 年 9 月開催）以降の 1 年間における 1 種・2 種委員会の活動報告が行われた。主たる質疑は以下のとおり。

- ・2007 年版示方書の英訳化が行われているが、刊行時期が遅いのではないかと（町田顧問）。  
→・2007 年版の英文示方書の刊行時期は従来に比べ早くなる。また、現在の改訂小委員会では英訳を念頭に置きながら改訂作業を進めることとしており、早期の英文化に努めたい（宮川委員長）。
- ・国際会議などの機会を通じ、示方書の概要を紹介している。国際会議では、中国基準が引用された報告も見られる。紹介だけでなく、使ってもらうための努力も必要である（丸山委員）。
- ・設計編は ISO に準拠するコードとして認められれば国際基準となるが、それには英文の示方書が必要である（町田顧問）。
- ・現時点では 2002 年版のみが ISO に対応している状況であり、早い対応を望む（辻委員）。
- ・ISO で承認されたとしても、使われるかどうかは別であり、コンクリート委員会としてはベトナムへの基準作成協力のように、具体的な対応を進めるべきではないかと（堺委員）。

#### (2) 土木学会コンクリート委員会・小委員会活動報告（3 種）【資料 3-2】

岸幹事長より、前記 1 種・2 種委員会の活動報告と同様に、最近 1 年間における 3 種委員会の活動報告が行われた。主たる質疑は以下のとおり。

- ・個々の活動は興味深いですが、成果はどうなっているかと（町田顧問）。  
→・成果は技術シリーズとしてまとめられ、講習会などで公開される他、示方書改訂のための資料ともなっている（岸幹事長）。
- ・耐久性に関わる活動成果などは示方書改訂にも取り入れたいと考えているが、3 種委員会の活動としては、基準作成等への反映を意識せず、自由な発想に基づく若手研究者の研究活動支援と位置づけることも重要である（丸山委員）。
- ・委員会活動報告が行われるコンクリート委員会の場には、意見交換や議論ができるよう 3 種委員会委員長の出席を望む（長瀧顧問）。
- ・342 委員会の検討内容にはアセットマネジメントも含まれるのか、そうであれば行政関係者の参加が必要に思う（長瀧顧問）。  
→ マネジメントについてはインフラマネジメント研究小委員会（河野小委員長）が対応する（宮川委員長）。

#### (3) コンクリートのポンプ施工指針改訂小委員会および高流動コンクリート施工指針改訂小委員会に

ついて

宮川委員長より、ポンプ施工指針ならびに高流動コンクリート施工指針につき、委託研究として改訂小委員会を設置する計画があること、指針刊行のため、出版会計からの予算配分が見込めることおよび小委員会を設置する場合、ポンプ施工指針改訂は橋本委員、高流動コンクリート施工指針改訂は岸幹事長に小委員長をお願いしたい旨、報告があり、承認された。関連した主な質疑は以下のとおり。

- ・ これまで予算の関係から、指針類の改訂は困難であったが、示方書が改訂されたら、指針も改訂するよう努めるべき。高流動コンクリートについては、最近の国際会議では日本からの投稿が少ない。改訂するには是非、新しい情報を発信してもらいたい（長瀧顧問）。
- ・ 指針案の改訂が一部、できていない状況にはあるが、新しい知見は示方書の改訂に盛り込んできた経緯もある（阪田顧問）。
- ・ 示方書と指針の位置づけを明確にすべき（河野委員）。
- ・ 高流動コンクリートについては、CEN 規格が策定される見込みであり、改訂に当たって参照するのがよい（堺委員）。
- ・ 改訂は勉強のよい機会でもある。2012 年春を目処に作成を進めたい（宮川委員長）。

(4) 1 種・2 種小委員会委員追加・変更【資料 3-3 および 3-4】

宮川委員長より、土木材料実験指導書編集小委員会（205 委員会）およびけい酸塩系表面含浸材設計施工研究小委員会（275 委員会）の委員追加・変更の説明があり、異議なく承認された。

#### 4. 報告事項

(1) 第 3 種委員会 15 年間の活動および新規公募について【資料 3-5】

岸幹事長より、第 3 種委員会 15 年間の活動に関する報告および新規公募に関わる案内が行われた。

(2) 平成 22 年度出版計画の募集について【資料 3-6】

岸幹事長より、平成 22 年度出版計画の募集が周知された。

(3) 土木学会賞候補（研究業績賞，論文賞，論文奨励賞）の募集について【資料 3-7】

濱田幹事より、平成 22 年度土木学会賞候補の案内が周知された。平成 22 年度の研究業績賞は第 IV 部門及び第 V 部門の業績が対象となる。

(4) JST 公募の Web ラーニング教材競争コンペへの応募「資源循環を目指す環境配慮型建設材料ーコンクリート」について

宇治委員より、JST の Web ラーニング教材競争コンペに企画書を提出し、8 月 26 日にヒアリングを受けたとの報告が行われた。9 月 10 日に採否が決まる予定である。関連した質疑は以下のとおり。

- ・ 対象はコンクリートのみか（睦好委員）。
- 全体の視聴学習時間の制約からコンクリートのみとした（宇治委員）。

(5) 3 種委員会委員の追加・交代【資料 3-8】

岸幹事長より、施工性能にもとづくコンクリートの照査・検査システム研究小委員会（341 委員会）の委員追加が報告された。

(6) 講習会・シンポジウム等開催案内・報告

以下の講習会、講演会の開催案内が行われた。

- ① 2010 年制定コンクリート標準示方書『規準編』講習会 「性能照査型コンクリート示方書の実現に資する規格・規準群を目指して」【資料 3-9】（鎌田委員）；2010 年 11 月 10 日（水）開催，於 土木

学会

② 第 54 回日本学術会議材料工学連合講演会【資料 3-10】(服部幹事); 2010 年 10 月 25 日 (月) ~ 27 日 (水), 於 ハートピア京都

③ 土木学会 土木構造物共通示方書策定に伴う講習会【資料 3-11】(石橋委員); 2010 年 9 月 9 日 (木) 於 コクヨホール (東京), 2010 年 9 月 28 日 (火) 於 関西大学 (大阪)

また, 以下の報告会, 講習会開催につき, いずれも成功裏に終了したとの報告が行われた.

- ・コンクリート構造物のインフラマネジメント研究小委員会報告会「市民のためのコンクリート—コンクリートの将来について語ろう」(河野委員); 2010 年 8 月 24 日開催 於 土木学会
- ・「エポキシ樹脂を用いた高機能 PC 鋼材を使用するプレストレストコンクリート設計施工指針 (案)」に関する講習会 (二羽委員); 2010 年 8 月 30 日開催 於 長井記念ホール
- ・「コンクリートと地盤の境界問題に関する講習会」(濱田幹事); 2010 年 8 月 30 日開催 於 東大

(7) 平成 22 年度全国大会研究討論会研-09「環境調和型コンクリート材料学の創造」について

【資料 3-12】

濱田幹事より, 今年度の土木学会全国大会研究討論会の内容が報告されるとともに, 積極的な参加が要請された. 討論会は 2010 年 9 月 1 日 (水) 16:15~18:15 に行われる.

(8) その他

信田幹事より, H21 年度委員会活動度評価結果について, 研究企画委員会での審議結果が速報として報告された. コンクリート委員会に対する総合評価は「A」であった. 部門会議等での確認を経て, 後日, 正式に通知される見込みである.

5. その他

次回幹事会 (案件の締切): 2010 年 11 月 15 日 (月)

第 4 回常任委員会: 2010 年 11 月 22 日 (火) 14:00~17:00 予定 土木学会

以 上